教区だより

2017
2月
第339号

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

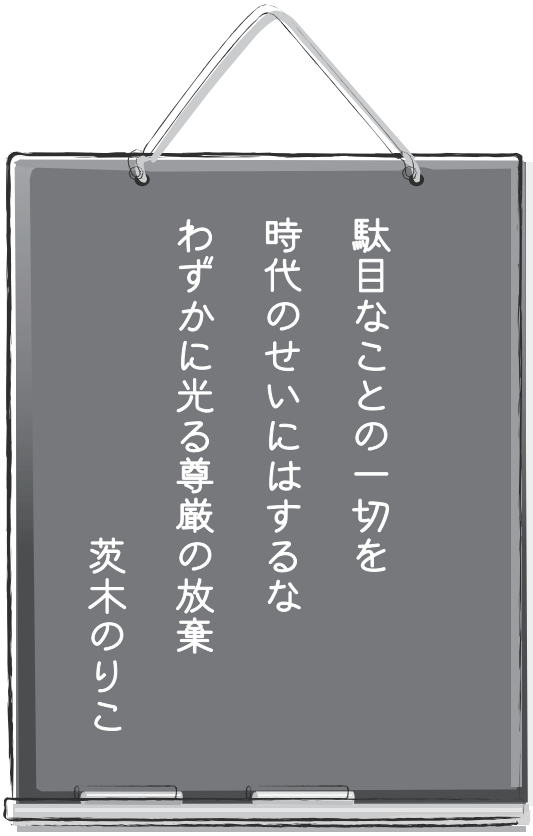
3 特集 「報恩講」
～美山に残る裃姿～

4 雑宝（ざっぽう）
～私を歩ませた言葉～
【筆者】近江第十組 寳滿寺 衆徒
岩永（いわなが） 晶子（あきこ）

5 連載 大乗仏教ー釈尊観の深化（しんか）ー
《第１０回》大乗経典とは何か
織田（おだ） 顕祐（あきひろ） 氏

6 今という時代／出会いの窓

7 京都教区教化レポート（教区坊守会）



■■■京都教区の動き■■■

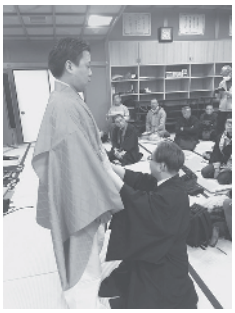
准堂衆会公開講座

去る十二月十二日（月）、教区会館二階大講堂において、内事部書記の山口昭彦先生をお迎えし、「大谷派の装束・実践編」を開催しました。

この公開講座は九月に開催された「同・講義編」の続編としての開催で、教区内外より多数の参加者を迎え、実際に七条袈裟等を着装しながら先生の講義を受けました。

着装時の注意点だけでなく裳付や直綴（じきとつ）の仕立ての違いや中啓の骨の種類などもお話しいただき、参加者一同熱心に拝聴いたしました。

（准堂衆会会員　山田　英明）



組門徒会正副会長研修会

去る十二月十六日（金）、二〇一六年度組門徒会正副会長研修会が開催された。講義では、錦教務所長から、ご自坊を取りまく状況、ご自身の歩みをふまえて、「念仏相続」と題してお話しいただいた。続いて、「お寺をこれからどうしたいですか？」をテーマに、全九班に分かれて座談会を行い、その後、全体会として、代表者によるシンポジウムを持った。聞法道場としてお寺をいただいているのか、私自身が問われていると感じた研修会であった。

（門徒・推進員研修小委員会委員　比叡谷　真）

聖典学習会

二〇一六年十二月二十日（火）十三時半教区会館、安冨信哉師に『歎異抄』第七条を講義いただいた。

念仏者はタブーから解放された自由人である反面、道徳を破壊する者と危険視される。しかし、道徳が人が生み出したものであるなら、人がつくったものに人が脅かされる。如何なものかと。また、「罪悪も業報を感ずることあたわず」。『観経』は「深信因果（じんしんいんが）」の世界、「因果」の法が人を縛ってきた。『大経』の「本願力」によって私たちは「深信因果」から解放されるとご教示いただいた。

（育成員等研修小委員会委員　村上　宗博）

「日本と原発」映画上映

十二月二十二日（木）、教区会館において福島の子どもたち一時避難受け入れの会主催で、映画「日本と原発」の上映会が実施された。この映画は、弁護士河合弘之氏が監督した作品シリーズの第一作目に当たる。甚大な被害をもたらした福島第一原発。この事実をどう受け止めるのか。日本に住む我々が進むべき方向性を訴えるものだ。映画には原発により悲しみの涙を流す人、咽（むせ）び泣く人の姿が描き出されている。同時にそれを飲み込む、再稼働への動き。今の河合氏の立ち位置と明確な強い意志が感じ取れた。

（福島の子どもたち一時避難受け入れの会会員　沙加戸　崇）

――特集「報恩講」――

美山に残る裃姿

丹波第一組　組長
菅原　道生

真宗の一年は報恩講に始まり、報恩講に終わると言われます。我が丹波一組も秋にはほぼお勤めが終わりました。

丹波一組は「茅葺きの里」で有名な南丹市の美山町にあり、ご多分に洩れず過疎の波を大きく受けて人口減少、高齢化に悩まされていますが、報恩講には家を離れて都会に出た門徒の皆さんも帰って来るところもあってお参りも多くなります。

各寺とも門徒衆が報恩講には助音方として裃を着用してお内陣の正面に座ります。裃は男性和服の最礼装として着用されたもので、昔は各地のお寺でも見られ、今でも十徳、袴姿でのお勤めをするところもあるとのことですが、裃姿での報恩講は全国でも丹波一組だけで見られるといわれます。裃は肩衣と袴が正装で、肩衣だけを着用したこともあったそうですが、その名残が略肩衣として現在も残っているのです。

裃姿の助音数も時代の変遷に従って少しずつ減少していますが、門徒数の多い寺では内陣の前に裃姿が二重にも三重にもなります。小規模の寺でも、僅か数人ながらも裃姿は必ずあり、その背後に多くの門徒が並び、それぞれ略肩衣を着けて全員で正信偈の真四句目下、五淘念仏和讃を勤めます。

丹波一組の中で光瑞寺、西乗寺の二ヶ寺では御満座に楽が入ります。楽人も門徒が勤めますが、それぞれ白衣に薄地の袴と楽服といういでたちで余間に並びます。楽人は若い時から訓練した人たちで、結讃に合わせて本堂に響く音色は素晴らしいものがあります。

この姿はいつから始まったものかは判りませんが、昔からお念仏の教えと共に相続されてきた報恩講のお勤めとして続けていきたいものです。高齢化の波は容赦なく襲いかかり、年代が変わっていく中で裃姿を負担に感ずる人も出てきて、この伝統を引き継いで行くことは容易ではないという声もありますが、何としてもお念仏の声と共に後代の門徒衆に引き継いでいかなければならないと思っております。

雑金

近江第十組　寶満寺　衆徒
岩永　晶子

『全て』や『一切』という言葉が出てきたら、自分と反対の人を思い浮かべなさい」

私は、仏教讃歌を歌う合唱団「うたはな」に参加しています。とても楽しく活動していますが、一つだけ悩みを抱えていました。

合唱団では「願以此功徳」の回向文を意訳した『回向』という歌を歌っています。

願わくは　一切世界の人々と
この出会いの喜びを
みな平等に分かち合い
ともに仏になる心　発して
阿弥陀みほとけの　安楽国に生れ
生きてはたらく身とならん

『回向』は歌詞がすばらしく、つい悦に入って歌ってしまうのですが、そんな自分の〈気分〉に、次第に違和感を持つようになってきたのです。

楽しく歌うのは悪いことではないし、そもそも、本願の〈事実〉のまえに私の〈気分〉などどうでもよいのだと、普段から聞かせていただいています。それでも、自分の〈気分〉が気になって仕方がありませんでした。

そんな時、修練の講義で聞いた冒頭の言葉を思い出しました。当時もなるほどとは思いました。例えば、自分が壮年なら、老人や子どもを思い浮かべれば、全体を網羅できる、と。けれども、当時は聞き流していました。

悩んだ私は、長い間忘れていた件の言葉を実践することにしました。合唱でも、普段のお勤めでも、『回向』の時は必ず、自分と反対の人を想像することにしたのです。

初めは、老人や子ども、男性、外国人等々、自分と異なる属性の人たちを思い浮かべてみました。けれど、しっくりきません。

そこで、今度は具体的な人物を思い浮かべることにしました。すると、すぐに自分のイメージが偏っていることに気づきました。

私は、自分にとって居心地のよい人ばかり想像してしまうのです。これではいけないと、自分と対立する人を想像してみました。とたんに「一切」という言葉から、私の持っていた甘美なイメージが消えました。

そもそも、私と反対の人とは誰でしょう。私が想像する居心地のよい人と、私は同じ要素を持っています。逆に、一見対立する人とも、実は似たもの同士なのです。対立は、共通のこだわりがあるからこそ、生じるからです。

本当に「一切」を想うのなら、私は自分が想像できない人をも想わねばなりません。私は、必死で自分と無関係な誰かを思い浮かべようとしました。けれども、私には想像できない人を想うことはできません。こうして、私の「一切」からはほとんどの人がこぼれ落ち、試みは毎回失敗に終わりました。

私には「全て」「一切」という言葉を妄想することはできても、本当の「全て」「一切」を知ることはできません。『回向』を歌う時に感じた違和感は、自分があたかも「一切」を知っているかのような妄想に対するものでした。

いうまでも無く、「回向」は阿弥陀仏が担われることで、私の手の中にはありません。

私は、仏様からさえ手柄を横取りしようとする自分の我の強さを、思い知らされました。

大乗仏教
―釈尊観の深化（しんか）―

第１０回
大乗経典とは何か

織田　顕祐
（大谷大学教授）

これまで、ブッダ釈尊の入滅を通して普遍的な菩薩と仏の世界を説く経典が誕生する背景をずっと尋ねてきました。そして、釈尊の生涯を無限の過去から説き始める仏伝経典の誕生にも触れましたが、その際一つ言い忘れたことがありますので、ここで触れておきます。それは釈尊が、無限の過去において既に成仏された先輩の仏から「未来に仏となる」という確約を受ける物語が必ず挟まれていることです。この未来に必ず成仏するという保証を「授記（じゅき）」と言いますが、それはかならず既に成仏された仏から与えられるのです。つまり、釈尊以前に仏がおられて、釈尊はその法統に従って生まれたということです。この点は、既に第二回目の「釈尊の遺言（二）」で触れたように、釈尊自身が「私は古の聖者たちが歩まれたその道を歩んだに過ぎない」（『増一阿含経（ぞういちあごんぎょう）』）と説いていたのでした。

釈尊に授記を与えた仏を「燃灯仏（ねんとう）（錠光仏とも普光仏とも説かれる）」と言います。それで、仏伝の中のこの出来事を「燃灯仏授記（ねんとうぶつじゅき）」と称しています。ガンダーラなどの仏教美術彫刻においてもよく知られた感動的な場面です。ぜひ一度ご覧になっていただきたいと思います。この過去仏の物語もブッダの普遍性を意味していると考えられます。そして、釈尊は第七番目の仏であるとして、「過去七仏」が説かれるようになります。釈尊が誕生するとき七歩歩いて「天上天下唯我独尊（てんじょうてんげゆいがどくそん）」と宣言されたという物語の、「七歩歩いて」というのはこの第七番目の仏であるということを表しているのではないかと思われます。

さて、これから具体的に一つ一つの大乗経典を紹介していこうと思いますが、これまで述べてきた諸点を再度で要約しておきます。ブッダ釈尊の入滅を通して、仏弟子たちは「仏とは何か」「法とは何か」という根本的な問いに直面しました。その問いを通して様々な探求がなされ、歴史的な出来事を通して「超歴史的」な仏と法が明らかになっていったのです。既にしばしば述べてきたように、仏によって法が説かれ、法において仏が成り立つのですから、この仏と法の関係は決して切り離すことができません。しかしながら、言葉や姿形を超えた超歴史的な普遍の真理あるいは真実は、何らかの具体的な状況の中で一つ一つの言葉となって教えという姿を表すのです。従って、大乗経典には、それぞれの経典が持っている固有のテーマがあるように思われます。おそらく、そのテーマは経典が生まれた時代社会の課題との対話の中で生まれたに違いありません。しかし、今日の私たちにはそれを知るための方法が限られています。こうした畏怖をどこかで感じながら、それぞれの大乗経典の中に分け入っていこうと思います。

紙面も限られていますので、この連載では龍樹以前の初期大乗経典を中心にしたいと思います。言うまでもなく龍樹は、親鸞聖人にとっては七高僧の第一であり、一般には八宗の祖と称されています。釈尊以後の仏教の展開において最も重要な存在です。なぜならそれらはひとまず龍樹によって大きく体系化されたと考えられるからです。

今という時代

昨年末、電車内のトラブルを撮影した動画がネット上に投稿されて物議を醸していました。その動画では、お年寄りが「代わってくれって言ってるんだよ。席を」と優先席を譲るよう求めていますが、その言い方に気分を悪くした様子の若者が「悪いけどそういう人に譲りたくないわ…残念だったな」と拒否すると、「何。そこ優先席だって分かんないんだ」「分かんないですね」という会話のやりとりがありました。

動画では、その場面だけなので、トラブルの詳細は分かりませんが、一触即発の様子が伝わります。ネット上の声は、この動画を見た年齢層が関係しているのかもしれないですが、席を譲らなかった若者ではなく、お年寄りの方に非難の声が集中していました。

一方で、以前に電車に乗った時に、臨月間近であろう若い女性が優先席に座っている時に席を譲るように求めたお婆さんを見かけたことがあります。そのお婆さんは「動くのもしんどくて…」という若い女性に対して「そんなことでは元気な赤ちゃん産めないわよ」と言って、席を奪っているのを見かけました。

先ほどの動画のように、その姿をネット上にアップして嘲笑のネタにするのはやりすぎとしか思えません。このような若者が批判されないことこそが、自分の思いを絶対として、席を譲り合うこともできない状況を作り上げているのではないかと思えます。

そもそも優先席は、お年寄りや身体の不自由な弱者のためのもので、お年寄りだけが優先される席ではなく、若者であっても体の調子が悪かったりすれば座ることができます。ですが、私たちはいつも自分自身の立ち位置によって言動を変えてしまっています。以前に法話を聞かせて頂いたご講師は、「私たちのこころのことを考える時は、こころの間にろという言葉を入れてみればいいんです。するところころになります」とおっしゃっていました。不確かなころころと変わるこころで生きている私たちです。

先ほどの動画の若者とお年寄りの話でいうと、同じ電車賃を払っているのだから自分にも席に座る権利があるという若者の立ち位置と、弱者のために用意された席に、楽をしたいから座るなんていうのは恥ずべきことというお年寄りの立ち位置という立ち位置の違いがあります。

この若者とお年寄りの動画を見たときに私は、自分自身のお互いを認めることのできない姿をみました。「お前は他人（ひと）を、自分を認めることができるのか？」という呼びかけが聞こえてきました。聞法を続けているつもりでいても身に染み込んでいない自分の姿を浮き彫りにされたようでした。あるがままの自分を受けいれられない自分を駄目だと思うのは、自分で勝手に決めた自分の価値観でしかなく、たかだか浅い反省なのでしょう。状況、立ち位置によってはそんな思いも消えてしまいます。

わずか三十秒ほどの動画ですが、自分の姿を知らせて頂く貴重なひとときとなりました。

（編集委員　岡　信行）

出会いの窓

『赤玉 神教丸』（有川製薬株式会社）

滋賀県彦根には昔から伝わる胃腸薬がある。〝赤玉〟と親しまれている神教丸は江戸時代初期に中山道の鳥居本宿にある有川家によって製造販売された。以来現在に至るまで当時のままの製法で作り続けている。

子どものころ、「赤玉を飲んだら、どんなはら痛も治る」とよく言われていたものだ。今はもちろん用法を守って服用しているが、一般的な胃腸の痛みには効果抜群。（個人的な感想）

そういえば、蓮如上人御影道中も鳥居本宿で休息をとる。腹痛に悩まされた方も過去にはいただろう。その人たちも赤玉を飲んだかな？と思うと、赤い小さな丸薬から歴史の香りが漂ってくるような気がした。

（編集委員・蒲池 義圭）

京都教区教化レポート

【京都教区坊守会】

京都教区坊守会は二〇一六年度事業として、坊守会真宗基礎講座と、「寺をひらく、私をひらく」を年間のテーマとした研修会を開催する。すでに一日研修会を二〇一六年十二月五日（月）、教区会館にて藤場俊基先生（金沢教区常讃寺住職）からご講義いただいた。

お寺を「ひらく」、私を「ひらく」ということがわかりにくい。わからない。ただ門を開ければよいのか。このような話し合いを坊守会で重ね、開かれていないとは閉じていることでもある。閉じられた「お寺」「私」をわからないままでは済まされない。このような経緯から年間テーマとした次第である。

昨今、お寺離れが進んでいるといわれる中で、外的要因には抗（あらが）えないこともある。しかし内的要因はどうであろうか。好む、好まないに関わらず、お寺にご縁をいただいた身であれば、閉じられた「私」をどのように見つめていくのか。

藤場先生から、お寺を、私を開いたけれど何も無い、カラッポではどうするのか。ご指摘をいただいた。

又、二〇一七年三月六日（月）～七日（火）と近畿連区坊守会一泊研修会を京都教区坊守会担当でリーガロイヤルホテル京都にて開催する。講師は海法龍先生（東京教区長願寺住職）をお迎えし「寺をひらく、私をひらく」でご講義いただく。より問いを持ち、深められる研修会になることを願っている。

（京都教区坊守会会長　仲野　緑）

事務連絡

《敬弔》

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

［届出順］

近江第二十五西組　善養寺前坊守　安井　静江　二〇一六年十一月二十六日　九十四歳

近江第三組　金乗寺前住職　寺岡　専念　二〇一六年十一月八日　八十八歳

近江第九組　勝光寺住職　野田　暁春　二〇一六年十二月十六日　八十六歳

〔敬称略〕

《「額装御本尊」の授与開始について》

このたび宗派では、御本尊のある生活が次世代にも継承されていくことを願い、室内での壁掛けにも対応する額装型御本尊の授与を開始いたしました。

寺院・教会の皆様におかれましては、法義相続のため、ぜひ有縁の皆様にお勧めいただきますようご案内申し上げます。

○授与礼金　一〇、〇〇〇円

※授与についてのお問い合わせは、京都教務所または本山本廟部参拝接待所までご連絡ください。

《得度式・住職任命式・帰敬式の専用記念品について》

得度式・住職任命式・帰敬式の専用記念品として、各専用額が発売されました。

○度牒専用額　価格二七、〇〇〇円（税込）

○住職任命辞令専用額　価格三二、四〇〇円（税込）

○法名紙専用額　価格二、一六〇円（税込）

〈注文先〉東本願寺願生舎（東本願寺総合案内所内）

※注文用紙は京都教務所にございます。

《京都教区「得度学習会」のお知らせ》

二〇一六年度京都教区「得度学習会」を開催いたします。

○期　間　三月二十九日（水）～三十日（木）

※三十日午後に得度考査を行います。

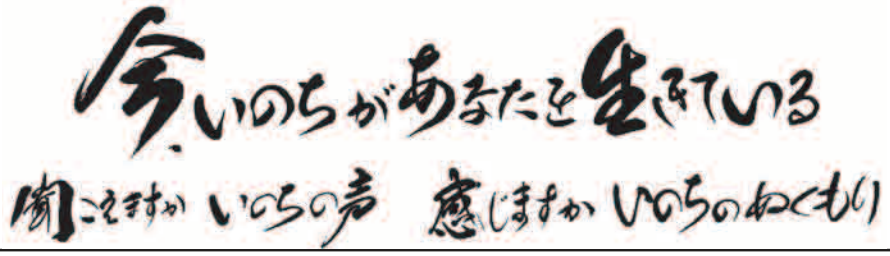
○講　師　教区教化委員　本山本廟部堂衆

○参加対象　二〇一七年五月以降に得度式受式予定の方。

○申込期限　三月十七日（金）まで

※研修日程等の詳細につきましては、「教区だより」に同封してあります、開催案内をご参照ください。

■京都教区教化テーマ■



◆教区事業予定

２月　３日（金）	13：00 ～ 17：00	教区改編地方協議会	会場◇長浜教務所
２月１３日（月）	13：00 ～ 16：00	選挙管理会	会場◇教区会館３Ｆ会議室
	13：30 ～ 17：00	出版小委員会	会場◇教区会館３Ｆ研修室
２月１６日（木）	13：30 ～	第１４期伝道研修会	会場◇教区会館全館
～１７日（金）	～ 16：00	〃	会場◇　〃
２月２０日（月）	11：00 ～	門・推研修小委員会奉仕団上山	会場◇同朋会館
～２１日（火）	～ 15：00	〃	会場◇　〃
２月２２日（水）	13：30 ～ 16：30	お寺の子ども会サポート研修会	会場◇教区会館２Ｆ大講堂
	17：00 ～ 19：00	青少幼年研修小委員会	会場◇　〃

◆地区・団体事業予定

２月　８日（水）	18：00 ～ 20：00	声明会	会場◇教区会館３Ｆ研修室
２月　９日（木）	19：00 ～ 21：00	仏青声明教室	会場◇教区会館２Ｆ大講堂
２月１０日（金）	13：30 ～ 16：00	教区合唱団	会場◇教区会館２Ｆ大講堂
２月１５日（水）	9：00 ～ 16：00	坊守会真宗基礎講座	会場◇教区会館２Ｆ大講堂
２月２０日（月）	15：00 ～ 18：00	准堂衆会研修会	会場◇教区会館３Ｆ研修室
２月２０日（月）	8：00 ～	教誨師会研修会	会場◇熊本刑務所他
～２２日（水）	～ 13：00	〃	会場◇　〃
２月２２日（水）	18：00 ～ 20：00	声明会	会場◇教区会館３Ｆ研修室
２月２７日（月）	15：30 ～ 18：00	大谷保育協会	会場◇教区会館３Ｆ研修室

「教区だより」第339号

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

発行日　2017（平成29）年2月1日
発行人　錦　秀見（真宗大谷派京都教務所長）
発行所　真宗大谷派京都教務所
〒 600－8164
京都市下京区花屋町通烏丸西入
Tel：075（351）5260
Fax：075（351）5256
メールアドレス：kyoto@higashihonganji.or.jp
ホームページ：http://www.k-kyoku.net/

印刷所　（有）寶印刷工業所

the editor's note　編集後記

１月半ば、滋賀県は大雪に襲われました。日常生活には不便な雪ですが、この雪が琵琶湖の水の還流（冷たく酸素を多く含んだ水が湖底に沈みこむことでおこる湖の深呼吸のような現象）を促し、自然の恵みをもたらしてくれます。

さて、来月（3／6）に『教区だより』公開講演会があります。『教区だより』での連載が雪解け水となって皆さんのもとに届く恵みとするならば 、その源流となる織田先生のお話と出遇える機会となります。是非おいでください。お待ちしております。

（編集委員　蒲池義圭）